



【1】一種研開催報告

2024年11月14日から16日にかけて、金沢商工会議所(写真1)にて、A・P研究会とRCS研究会の併催による第一種研究会が開催されました。本研究会では、A・P研究会から15件、RCS研究会から13件、A・P/RCS研特集セッション「幅広い周波数帯活用を目指した無線通信技術」から10件、さらにA・P研 / IEEE AP-S Nagoya Chapter共催特別講演が1件の計39件の発表が行われました。



写真1 金沢商工会議所にて研究会の様子

A・P研究会の15件の発表の中には、1件のチュートリアル講演が含まれており、KDDI総合研究所の林高弘氏が「6Gに向けたユーザセントリックネットワークの研究開発」について説明されました。

A・P研究会とRCS研究会の共催招待講演で、電気通信大学の安達宏一准教授が「省電力広域ネットワーク(LPWAN)における無線資源割り当てに関する検討」と題した講演を行いました。LPWANの最新研究動向や無線資源割り当て、研究グループの取り組みであるパケット型インデックス変調(PLIM)の高度化、端末クロックドリフト補償、大規模ネットワークにおける隠れ端末問題の解決方法などが紹介されました。



写真2 電通大安達先生のご講演様子

また、A・P研 / IEEE AP-S Nagoya Chapter共催特別講演として、名古屋工業大学の菊間信良教授(写真3)による「マトリクスに魅せられて40年」という題目の講演が行われました。この講演は、10月の新井先生に続き、今年度のご定年前の記念講演となりました。菊間教授は、マトリクスを軸としたアダプティブアレーアンテナや方向推定に関する研究について改めて皆さんに共有されました。さらに、マトリクスを家族に例え、固有値や固有ベクトルを家族の健康診断に例える独自の視点から、その魅力を語られました。50分間の講演では40年間の研究をすべて語り尽くすことは難しいため、次回の講演でのさらなるご教授が期待されます。

【2】各種委員会開催報告

A・P研の各種委員会の活動と役割について詳細は2022年11月号のA・Pお知らせにご参考ください。A・P研では、専門委員会の下に6つの委員会が構成されています。

今回は、2024年11月1日に東京科学大学にてその各種委員会がハイブリッド開催されました。当日のスケジュールは下記のとおりでした。ここでの議論の結果は12月の専門委員会に諮られ審議されます。議論の内容の紹介は専門委員会での承認を待たなければなりません。A・P研は、このような委員会活動によって支えられています。

表彰委員会	9:30~10:20 (50分)
アンテナの歴史委員会	10:25~11:15 (50分)
WS常設委員会	11:20~13:00 (100分)
国際委員会	13:50~14:40 (50分)
論文委員会	14:45~16:45 (120分)
伝搬DB委員会	16:50~17:40 (50分)



写真3 名古屋工業大学 菊間 信良教授(中)
Nagoya Chapter 松永 真由美チエア(左一)
A・P研究会委員長 榊原 久二男教授(右一)

【3】副委員長の戯言

◆2年前「お知らせ」の内容(天動説か地動説か)

当時の副委員長であった藤元先生は、2022年11月号のお知らせで、2022年11月8日に日本で皆既月食と天王星食が同時に発生したことについて、天動説と地動説の観点から詳しく解説されました。今年11月14日の研究会終了後、懇親会会場へ向かう途中で、会場に隣接する金沢城の鼠多門の上空に十三夜(10月)の月が美しく浮かんでいたため、写真に収めました(写真4)。撮影機材や技術があまり十分ではありませんが、ぜひご覧ください。

また、Googleカレンダーでは陰暦を表示する機能があります。以下の手順で設定することで表示が可能です。

Googleカレンダーを開き、ログインしてから、設定(歯車アイコン→設定)を開きます。全般ところの「代替カレンダー」で「日本の暦(旧暦)」または「中国の暦(旧暦)」を選択すれば設定終了です。

◆懇親会的一幕

懇親会(写真5)は楽しい雰囲気の中で進行していましたが、その途中で、座席ベンチの壁側(写真6)に1台のスマートフォンが落ちてしまいました。隙間はわずか2~3cmで、箸などを使って試みましたが、すべてうまくいかず…。さて、最終的にどのようにしてそのスマートフォンを取り出せたのでしょうか？

◆Everything should be made as simple as possible, but not simpler

アインシュタインの名言ですが、これを実感したのは、開発手法がさまざまなケースに応用可能であり、なおかつ簡潔であり、近似条件がいらないうことを実現できたことです。また、10月と11月には、卓越研究者である新井先生と菊間先生がそれぞれ40年の研究を振り返るご講演をされました。このシンプルさは、複雑なプロセスを意識せずに、表面的には「薄い」知識で対応しているように見えても、実際には厚い基盤によって支えられていることを意味します。マクスウェル方程式もその一例です。



写真4 金沢城の鼠多門の上空に十三夜の月



写真5 RCS 研委員長 眞田幸俊(慶大)先生の懇親会ご挨拶様子



写真6 スマートフォンが落ちた現場

〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 袁 巧微(東北工業大学)

E-mail: ap_ac-chair@mail.ieice.org (A・P研執行部のメールアドレス)

AP-NET: A・P研最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はA・P研HPにて

A・P研HP: <https://www.ieice.org/cs/ap/>

